

(兼題)

「誘う」

今岡 健柳 選

佳句

風誘う野山も笑う五月晴
悪友の電話は午前さまで来る
誘われてきれいな嘘の中にいる
誘い水しては訊き出す錆びぬ知恵
胸に隙そこに誘って面一閃

人

博子
瑞人
桂子
利彦
瑞人

声かけて恋はあせらず返事待ち

地

桐原 洋子

誘われた都会固辞して父母は里

天

竹治ちかし

青空に誘われ出会う季の恵み

軸吟

竹治ちかし

少年を未来に誘う宇宙旅

今岡 健柳

(兼題)

「手紙」

小豆沢歌子 選

佳句

嫁ぐ日に手紙燃して想い・切る
手紙から君の笑顔がこぼれだす
天国に逢いたい人が居る手紙
嫁入りに取捨選択という手紙
色褪せた手紙こっそり囁いた

人

らんまん
あきら
寿美
ちかし
敬子

寂しくて母の手紙を読んで居る

地

多久和敬子

未送信ボックスだけが僕を知る

天

西坂 瑞人

母からの手紙 故郷の匂いする

軸吟

竹治ちかし

何回も涙を誘う手紙読む

小豆沢歌子

(兼題)

「出る」

岡 あきら 選

佳句

播けばこそ芽が出る育つ夢がある
好奇心出よう出ようとする本音
出る釘は打たれて強くなりました
閉じ籠る心連れ出すうまいもの
兄弟で想い出作る旅に出る

人

利彦
歌子
玲峰
玲峰
久子

出て行って帰って来ません鯉のぼり

地

大福 利彦

鬼が出る話信じたよい時代

天

竹治ちかし

出発の間際 本心打ち明ける

軸吟

吉川らんまん

米寿祝出席するという返事

岡 あきら

(席題)

「空」

竹治ちかし 選

佳句

ドローンを飛ばして空をまた汚す
空豆も熟して来れば頭垂れ
青空に恥じない暮し肩が凝る

人

あきら
利彦
あきら

空を見る身体が青に染まるまで

地

錦織ゆきこ

我が悩み解いてくれそう深い空

天

大福 利彦

籠を出て自由な空で迷う鳥

軸吟

伊藤 玲峰

人は皆 善だと思ふ青い空

竹治ちかし